

分科会名 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> 図画工作科 </div> 令和5年6月14日（水）	会 場 川崎市立宮崎小学校 助言者 川崎市立小学校図画工作科研究会顧問 川崎市立川崎小学校校長 中臣 信丈 川崎市総合教育センター 長澤 秀行 授業者 川崎市立宮崎小学校 小野田 浩士 堀越 啓子 司会者 川崎市立今井小学校 佐藤 祐実 記録者 川崎市立稗原小学校 石川 裕貴 世話人 川崎市立子母口小学校 小泉 亮太 出席者数 64名
---	--

1 提案の概要

「色合い ひびき合い ～君だけの一瞬の色をキャッチしよう～」(第4学年 鑑賞) 題材の中に二つの鑑賞の時間がある。一つ目は、色を創り出す活動の中での鑑賞(前半)、二つ目は出来上がった色やカードを鑑賞する時間(後半)である。前半で「色をつくる」という目的のもとじっくりと色と向き合い、少しずつ変わっていく色を鑑賞しながら活動を進める。後半では、前次の経験を活かしながら出来上がった色のカードを鑑賞し、視点を変えながらさらに色や形のもつよさや美しさ、または色から感じられる様々な印象や自分の見方や感じ方を広げていく。

「むすんでつないで ひもひもワールド」(第3学年 造形遊びをする活動)生活科ルームという身近な場所を使い、協力しながら毛糸を結んで張ったり、友達の毛糸とつなぎ合わせたりしていく。活動を通して、毛糸のつなぎ方を工夫したり生活科ルームの形や色などの様子の変化を感じ取ったりする力をつけていく。

2 研究協議の概要

(3年生)

- 毛糸にした理由は、暖かみ、色を意識させる意図があった。明るい色に限定しなくてよかったと感じた。
- 場の設定について、体いっぱい動かせる広さの場として、生活科ルームを選んだ。場の工夫として、ネットを設置し、思わずやってみたくなるようにした。間に物を置かなかつたのは、空間を意識してほしかったからであり、安全面を考慮して高くしなかった。
- 毛糸がたわんでしまうことに関しては、どうすればよかったか検討が必要といえる。
- つなぐことに集中した児童は、声かけで技法を広げることができた。
- 評価に関して、全体の活動になった時の個々の見取りについては、写真などを活用して評価したい。

(4年生)

- 色を混ぜきっていたことに関して、最初に少しだけ混ぜたもの、混ぜきったもの、どちらがよいか迷うことを教師が示してもよかったと考えられる。
- 評価については、「色をつくれるようになる」ではなく、鑑賞の資質・能力を育成する。ねらいに沿って、鑑賞の様子をよく見るのが大切であり、次の題材で、鑑賞の資質・能力をいかしていることも見取っていく。

3 研究のまとめ

(川崎市立川崎小学校 中臣 信丈 校長) 資質・能力の育成がベースとなる。主体的・対話的で深い学びは授業改善の視点であり、深い学びの実現の鍵となるものが造形的な見方・考え方である。今まで以上に、形や色に関心をもてるようにする必要がある。自由に鑑賞させても、造形的な見方・考え方(形や色)を視点に話ができることが大切である。色や形に豊かに関わることで自分自身の幸せにつながるようにしていくことが、これからの図工の授業に必要である。

- 個別最適な学びと共同的な学びの一体的な充実については、学習の方法論であり、一人一人が自立して学習に取り組み、自分としての結論に達するようにする。そこから、友達の考えを聞くこと等を通して、協働学習につながるようにし、自立学習に戻るようにしていく必要がある。この二つを柱にして学習を構築していかなければならない。
- 主題、材料、技法の3つの視点で図工の授業は決まるといえる。児童が、主題を大切にして、その作品についてたくさん語れる作品が素晴らしい作品といえる。鑑賞や造形遊びでも、活動についてたくさん語れるような授業にしていく必要がある。
- 題材名を大切にしていく必要がある。造形あそびでは、特に題材名が大切であり、授業の方向性を示すものとなる。適切に設定することで、学びのある「造形遊び」になるといえる。技法名等を入れながら題材名にしていけることも考えられる。教科書では、どの活動の進め方でもできるように広く捉えられる題材名が設定されているので、使用する技法等を入れて題材名にするとよい。今回の「むすんでつないで ひもひもワールド」は、技法が入っているのでわかりやすくなる。鑑賞でも、一瞬に注目させたかったので「一瞬」を入れたが、題材名を適切に設定することで、自立的な学習につながる。

○造形あそび

毛糸の色が限定されていると、表現したいことが表現できない。場の設定としては、狭かった。一人ずつしっかりと活動し、場をさらに広げていけるようにするために、広い場所の設定が必要といえる。

○鑑賞

導入が素晴らしかった。活動の見通し持つことで、取組む意欲へとつながる。これから求められるのは、教師主導ではなく、見通しをもたせ、主体的に学べるようにすることである。二つの授業ともに、自立した学習をしていた。やる気になっている児童を止めるのではなく、やりきれるようにしていく必要がある。今まで色を混ぜきっていた児童を、混色の途中で止められるようにする授業計画が必要となる。意図的にどのように混色を止め、色の混ざり方の多様性に気付かせられるかが重要である。

○自立して学ぶためには、ヒント、技法の提示、いつでも資料等が見られるようにな配置が大切といえる。
(総合教育センター指導主事 長澤 秀行) 共通事項を意識することが大切である。3・4学年では、形
の感じ・色の感じ、それらの組み合わせによる感じ、色の明るさなどをとらえることと示されている。

○題材の評価規準を振り返りながら、どんな資質・能力を育成するのか確認することが大切といえる。

○造形あそびの活動は、材料と場の設定で決まる。毛糸の「組み合わせの感じ」を大切しながら、活
動を見取る必要がある。

○鑑賞では、自分の感性を働かせている姿を価値づけ、それを積み重ねていくことで、表現の多様な在り
方を認めたり、自己肯定感を高めたりすることへつながっていくと考えられる。

今後の課題

○活動場所の広さを考えた場の設定 (造形あそび)

○混色している途中で、児童が意図的に混色を止められる手立ての工夫 (鑑賞)